



法の光

(法光山 妙勝寺 通信)

No.198-1

2016年(平成28年)

6月 1日発行

文責 大岩 清人

— 成功は自信につながり、失敗は知恵につながる(インドことわざ) —

だいぼだつたほん

提婆達多品 第十二 その3

佛法の基本は因縁いんねんという考え方です。悪は悪縁によるもので、善は善縁によるものと考えます。つまり、心には本来善悪はなく、絶対的な善人も、絶対的な悪人もいないのです。善心・悪心になるのも縁によるのです。

提婆達多が五逆罪(5つの大罪)を犯したのは悪の縁に染まったからであり、その後熱心に佛法を学び修行したのは善なるご縁があったからなのです。

本来の心はこうなのですが、人間は長い年月の間、悪業(欲望)の因縁に染まっているとも言われています。(如来寿量品第十六)

「提婆達多去むりようこうって後、無量劫まさを過ぎて、当に成佛うすることを得べし。號なをば天王如来・・といわん。世界をば天道と名づけん。」

提婆達多じゆきのような欲の強い人も、法華經の教えを修行し、未来世に於いて佛になると受記(約束)があったのです。=悪人成佛

「天王如来となった提婆達多はとてつもなく長い間、正しい教え(法華經)を説き続けるでしょう。亡くなった後は七宝で造られた塔の中に安置されます。その塔は巨大なものです。人々は様々なものをお供えし、供養するのです。この塔を礼拝する人は間違いなく悟りへの道しつぽうを歩き出すでしょう。」

次に在家信者ぜんなんしに向かって、「在家信者の善男子・善女人ぜんによにんは、この法華經の提婆達多品を聞くことができるでしょう。聞いて疑わず、さらに清らかな心で熱心に聞く者は、地獄、餓鬼、畜生の世界に生まれ変わることがないのです。彼らは佛の世界に生まれ、生まれ変わるたびに法華經を聞き、またその行いによって人天に生まれれば素晴らしい安樂を得、佛国土に生まれる時は美しい蓮の中に生を受けるでしょう。」

提婆達多がお釈迦様にとって鏡であったように、私たちが遭遇するすべての人が鏡となります。

その鏡を通して、自分のこだわり(執着)を知ることが大切なのです。

そして、法華經を行ずる事で佛の境地に至れると約束されています。

法華經を行ずるとは、生活の中で自分のことばかり考えず、穏やかな心で、人を喜ばせ・幸せにしてあげようという菩薩行で生活することです。

熊本地震 日蓮宗寺院 被災状況



左上の写真は熊本市妙立寺の山門です。車を巻き込んで倒壊しています。

右上の写真は熊本市本妙寺の石塔群の倒壊状況です。本妙寺は加藤清正公の菩提寺です。加藤清正公の銅像の槍も折れてしまったのです。また、清正公の母・聖林院の五輪塔も倒壊してしまいました。

右の写真は益城町の道安寺の本堂内の状況です。天井は傾き装飾物は落ち、仏具は飛び散り損傷しています。庫裏も立ち入り禁止の状態となり、駐車場にブルーシート敷いて避難されています。



これらのお寺以外にも多くの日蓮宗寺院が多大な被害を受けておられます。

檀信徒被害はまだ被災状況が集約出来ないのです。多くの方が避難所や車・テントで生活しておられるからです。

益々その被害状況は拡大すると思います。

義捐金のお願い

先号でもお願い致しました義捐金を募ります。妙勝寺へ直接お持ち頂くか、【振込口座 01170-7-73273 妙勝寺】通信欄に「義捐金」と書き添えてお振り込みください。日蓮宗関係への支援とさせていただきます。

重ねてお願い致します。 6月10日の集約で寄付致します。

今年は妙勝寺が1528年6月5日に建立されて489年目を迎えます。また妙勝寺をお開きになられた常在院日住上人がお亡くなりになって460遠忌を迎えます。

開山日住上人の祥月命日6月6日(月)16時より460遠忌(法事)・開山会を執り行いたいと思います。

本堂にてお経を上げ、報恩感謝のお供養をしたいと思います。お参り下さい。

妙勝寺寺子屋「お釈迦様の花祭り」報告

5月1日の日曜日、雲一つ無い五月晴れの中、賑やかに行くことができました。

10時に前野洋一南無の会会長の挨拶に始まり、人形劇(ペコちゃん)が始まりました。子供たちは人形に話しかけたり、劇に吸い込まれて行きます。

30分の劇を楽しみ、次は金魚・スーパーボールすくいです。

残念ながら金魚が元気すぎて、なかなかすくえません。金魚も必死です。

子供たちも金魚との格闘にこれまた必死です。

その合間に甘茶を飲んで頂きました。

藤祭りに来られた方が何をしているのだろう・・・と境内へ。

「私甘茶を飲むのは初めてです。砂糖は入っていないんですか？」と喉を潤して頂きました。

金魚すくい・スーパーボールすくいも終わり、最後に表彰式です。

金魚すくいの優勝者にアイスクリーム券をプレゼントし、お土産のおやつとジュースと金魚を渡し、賑やかな花祭りを終了したのです。

帰り際、花御堂のお釈迦様像に甘茶をかけて帰って行く姿が目につきました。この子供たちには、花祭り・甘茶がお釈迦様の誕生を祝う儀式だと知ってくれたことと思います。南無の会の皆さんお手伝いご苦労様でした。



中学校卒業から50年

今は無き山崎中学校(現山崎西中)を卒業して半世紀、20年ぶりの同窓会が行われ出席した。前回はお盆に開催されたため小生は棚経で欠席だった。

面影を残している者、誰だったかな～と戸惑う者、名札を付けているから昔の記憶をたどる。

「今どこにいるの」「何をしているの」とお互いの近況を聞きながら、テーブルを回って酒と話に花が咲いた。

「今、介護している。」「親か?」「女房がパーキンソン病になって・・」という男達がいた。「髪の毛が薄く、白くなってしもた・・。」

「今、独身」「今?」「主人が昨年無くなったの・・元気だったのに夕飯頃、チョット気分が悪いと言い出して、その夜2時頃だった。」

連れ合いを亡くした同級生が多くいた。

「今日出席出来たことが良かったな～」という言葉しかかけられない。

故郷に時々帰ってきたいが、親が亡くなったとか、実家が無くなったから足が遠のく寂しさをにじませる者もいた。

千葉・神奈川・愛知・大阪から日帰り出席してくれた。

50年の経過はあるにせよ、中学時代の関係に戻って、「おい、おまえ」と心の中に秘めた所を話せる場となった。今回は5年後となった。歳がそうさせた。

同窓会会話より

「僕のこと分かるか?」

「分かるぞ。目で分かる。」

「あんたの寺の檀家にして」

「何で? 主人が亡くなった時、訳あって主人の家とも離縁した・・。」

「主人が新日鉄で広畑から君津に転勤して住み着いて、千葉の人生の方が長くなった。周りは全国からの転勤組の千葉人ばかりよ。」

「神戸の長田で靴の製造会社しとる。二十年前の震災でやられたけどみんなに助けてもろた。」

「いっぺん飲みに行こ。電話しても出てくれるか。」

何か寂しそうな男友達だった。

「他のお寺の通り一遍な葬式と違い、おまえのお葬式は心がこもっている。」と褒めてくれた。

6月の日程

6月6日(月)	16:00より	妙勝寺開山会 ご開山上人 460 遠忌	本堂にて
6月18日(土)	14:00より	和讃の会	本堂にて
	15:00より	法華経の会	本堂にて